

都市史 呑川と池上・雪谷

17N1024 鍛冶屋 慎一

17N1029 加藤 雄大

17N1037 小菅 拓海

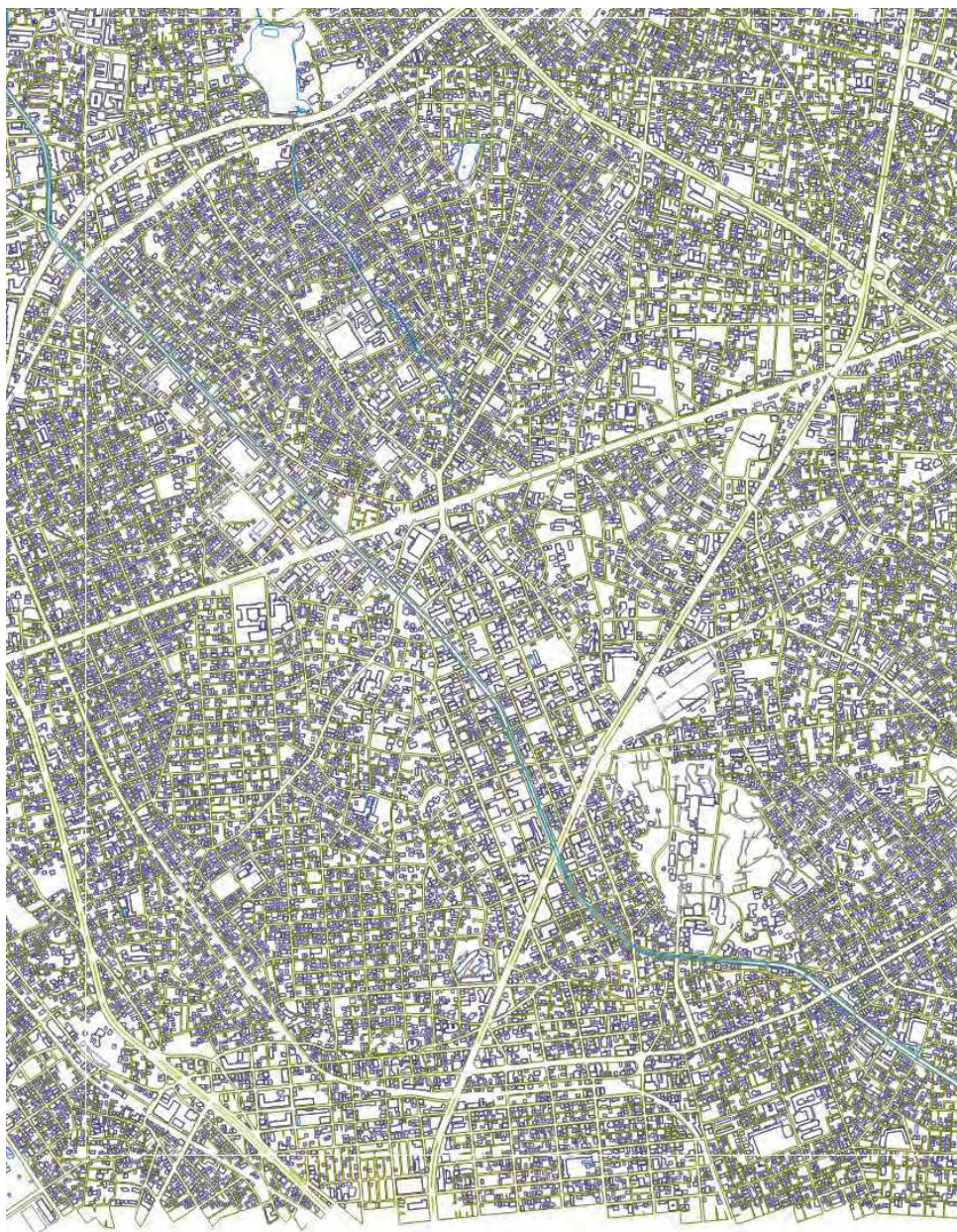
17N1038 小杉 和也

17N1048 佐々木 泰世

アドバイザー 大里 穂乃佳

田中 航平

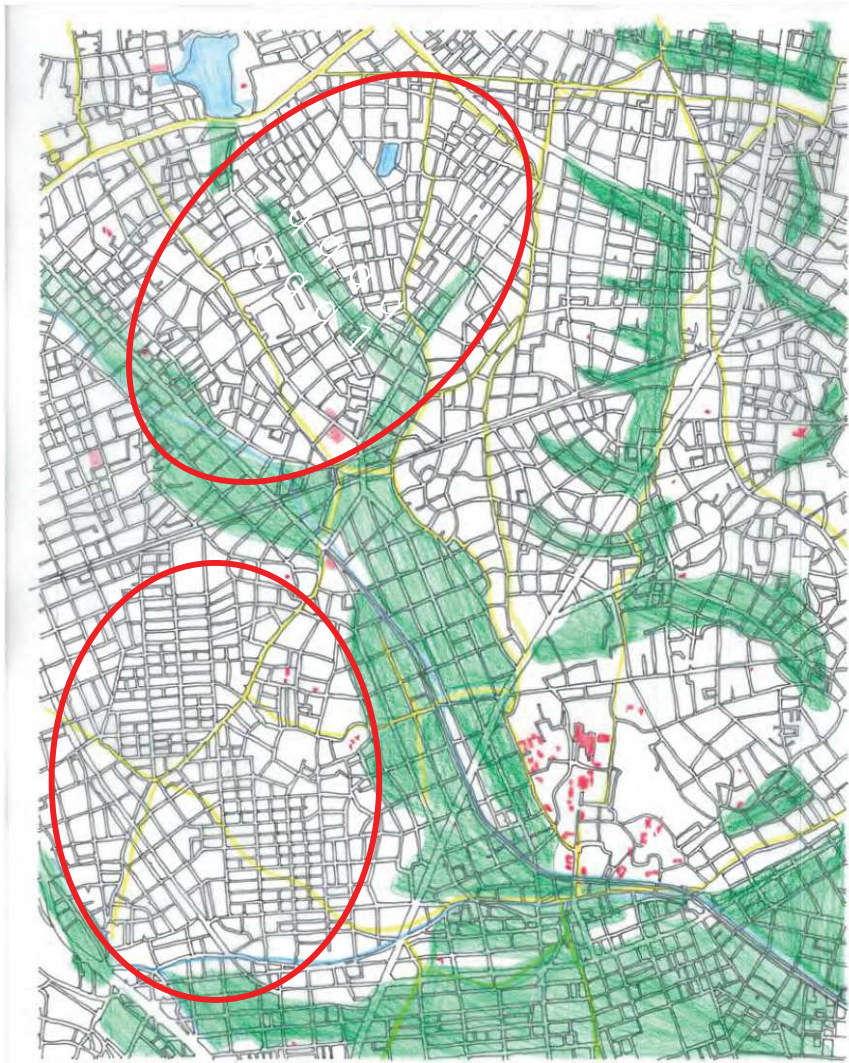
高瀬 直也



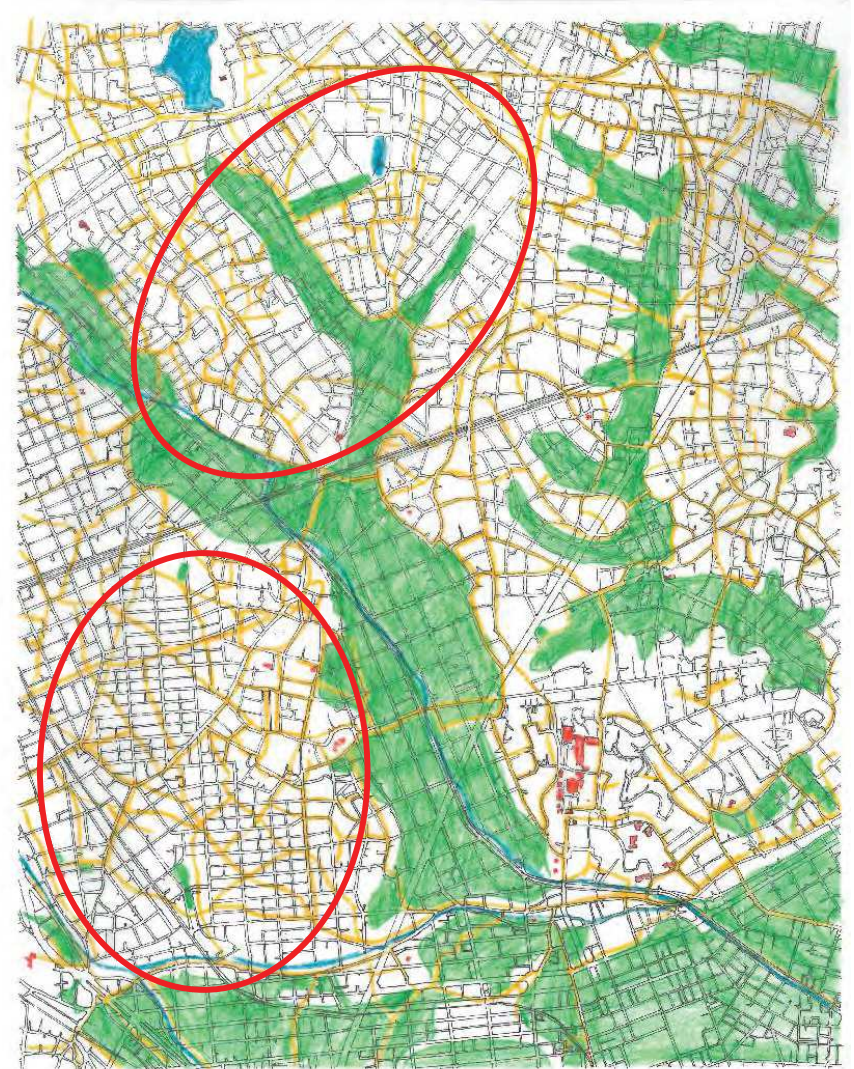
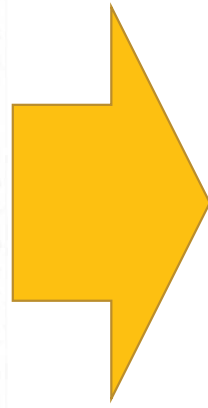
調査範囲

呑川周辺

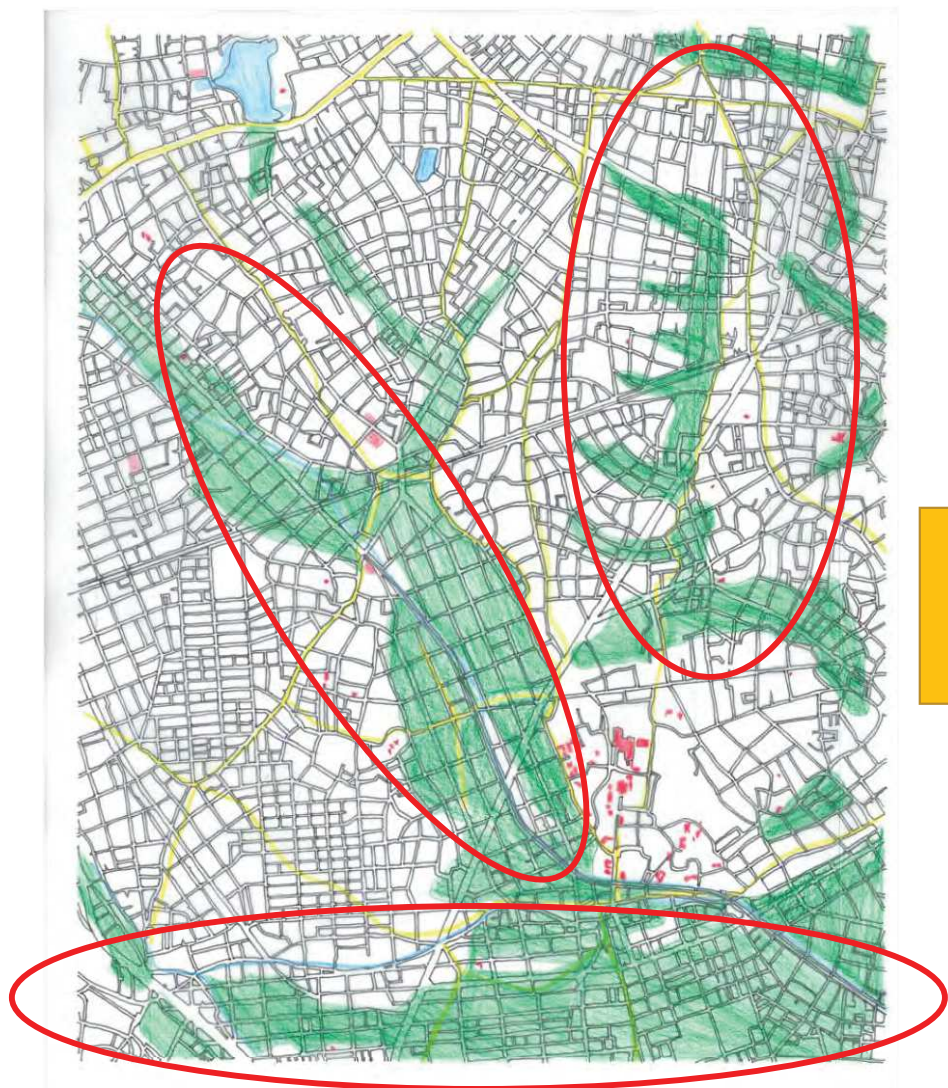
大田区 雪谷・池上・馬込



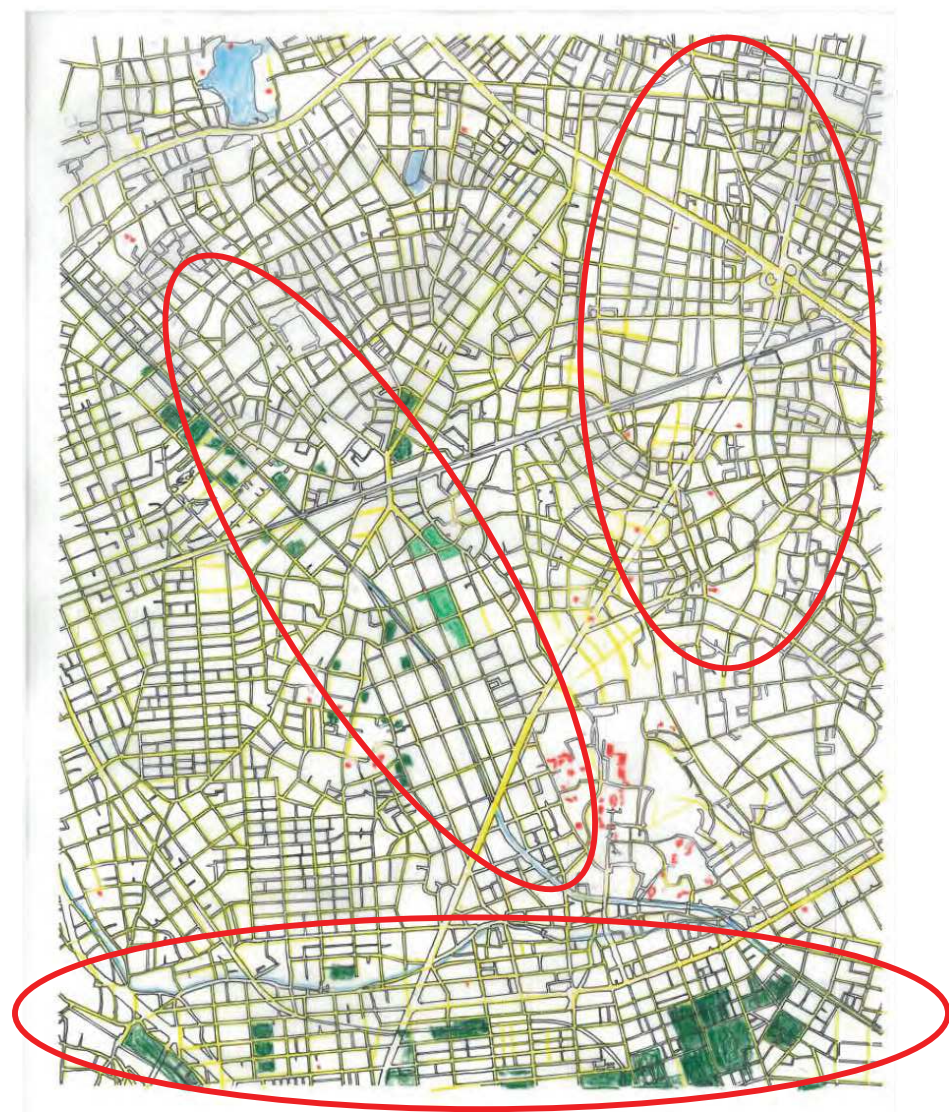
明治14年



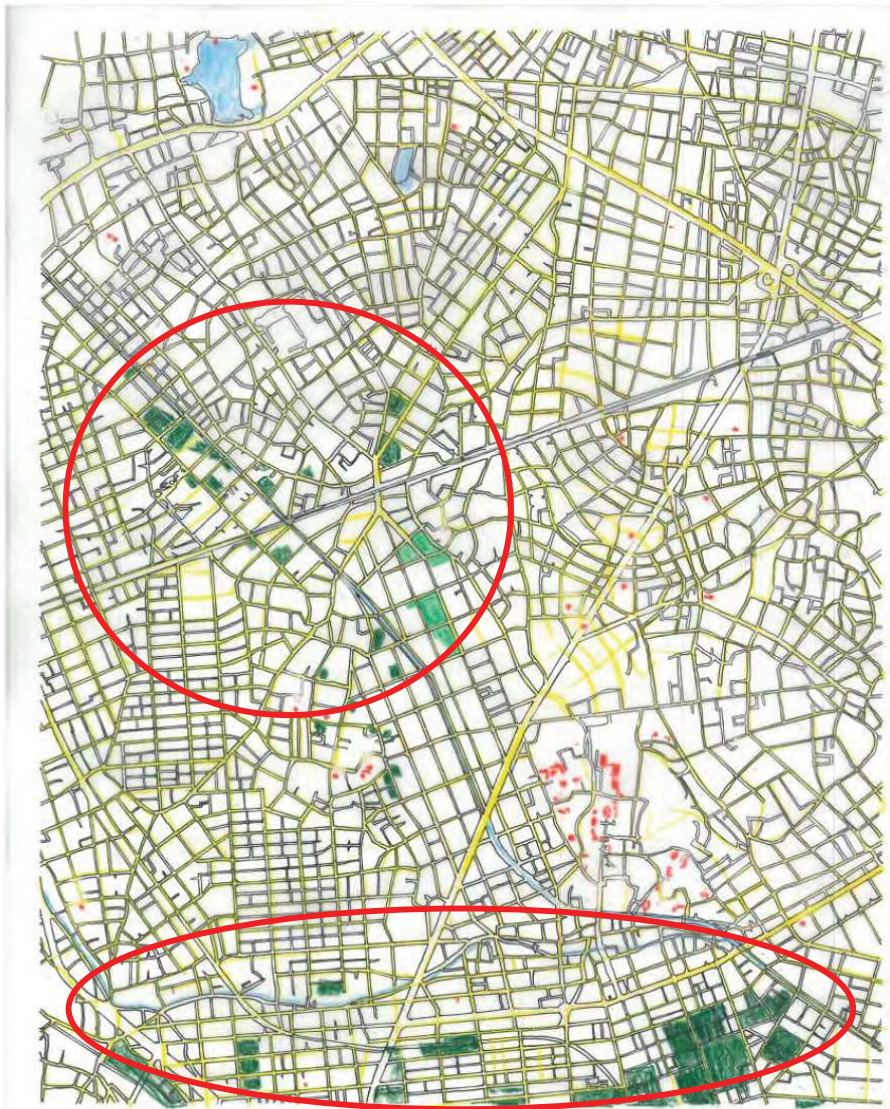
明治39年



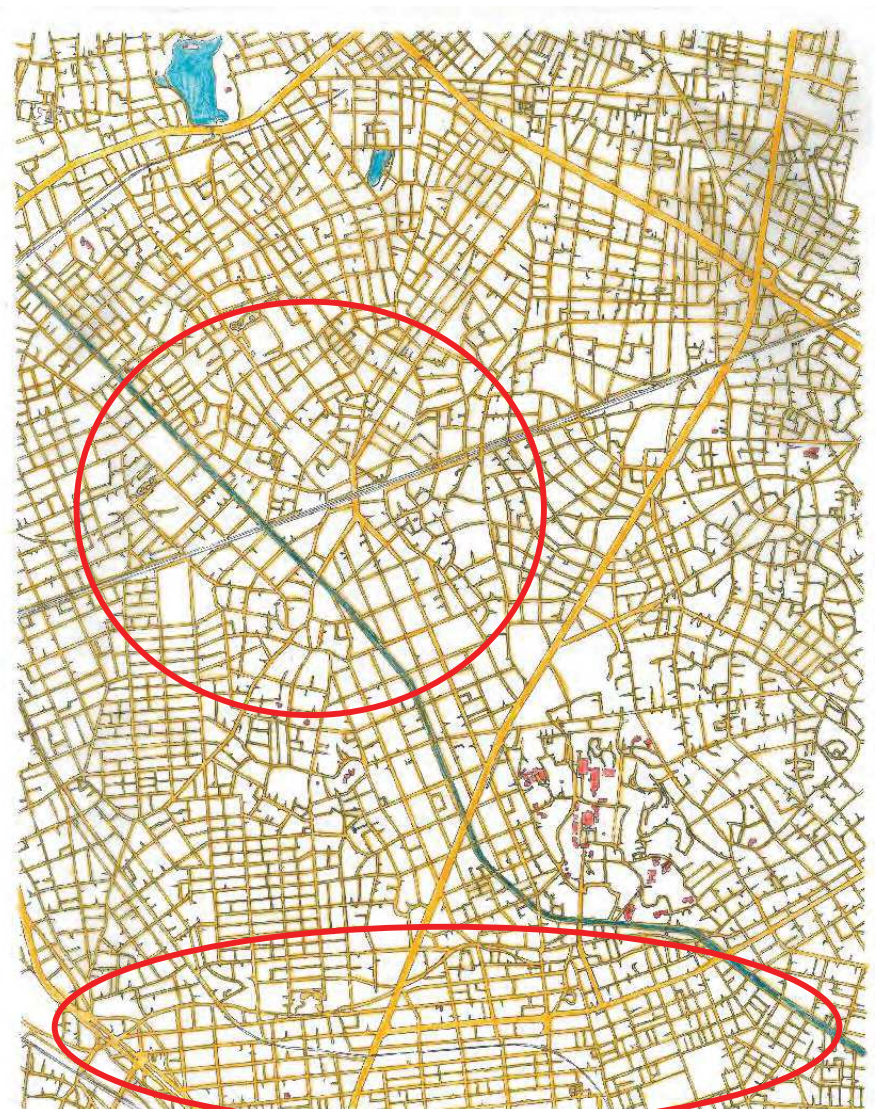
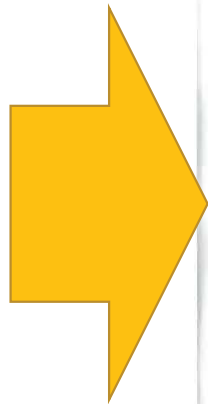
明治14年



昭和12年



昭和12年



昭和20年

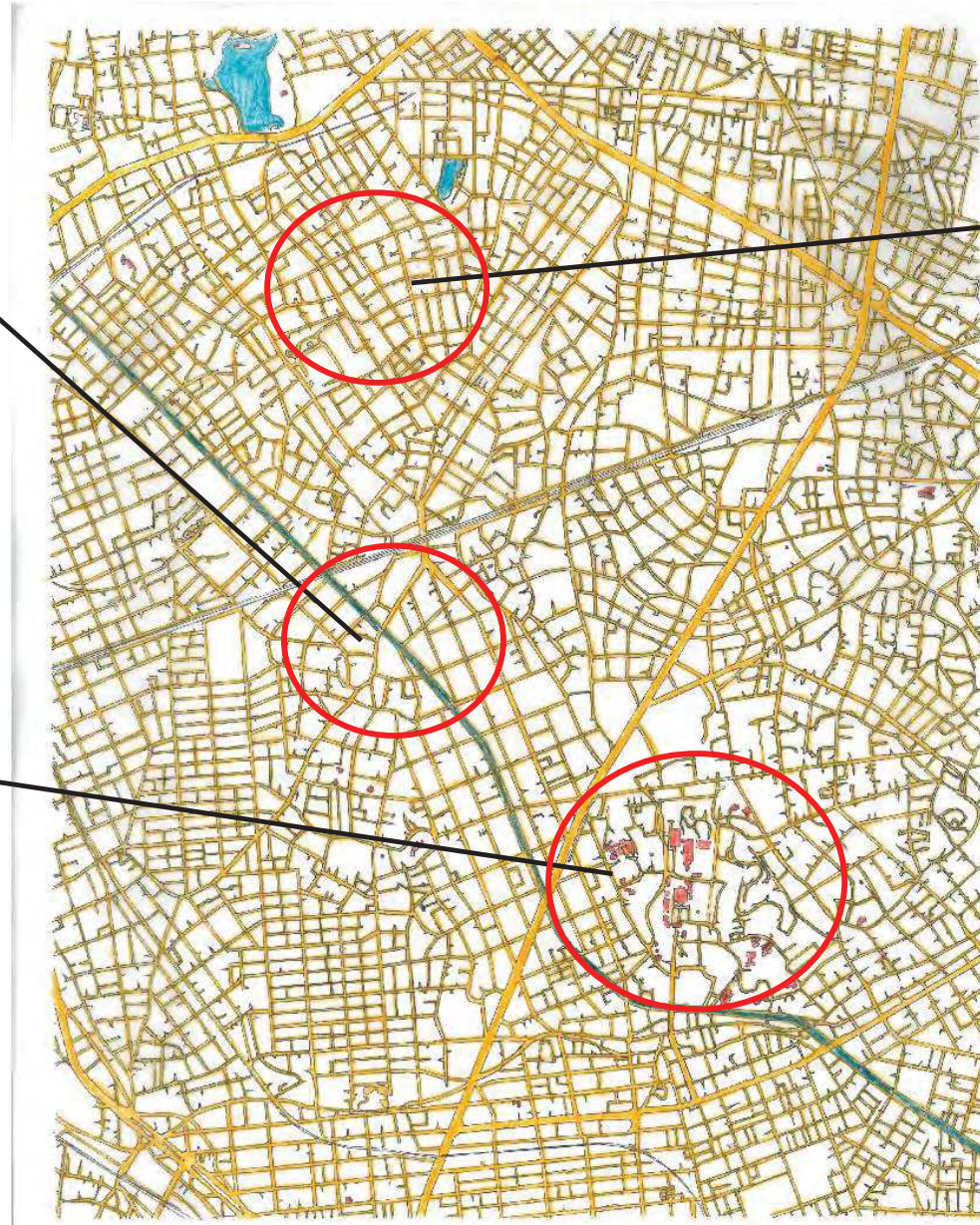
呑川の遷移

- ・ 大正から昭和にかけて耕地整理の実施
 - ・ 呑川は直線化が行われた
 - ・ 川に沿って碁盤目状の区画整理も同時に実施
 - ・ 大正13年の関東大震災後、呑川流域に人口の流入
- ➡木々が伐採され、田畑は埋められ住宅地や工場用地に

工場が多い



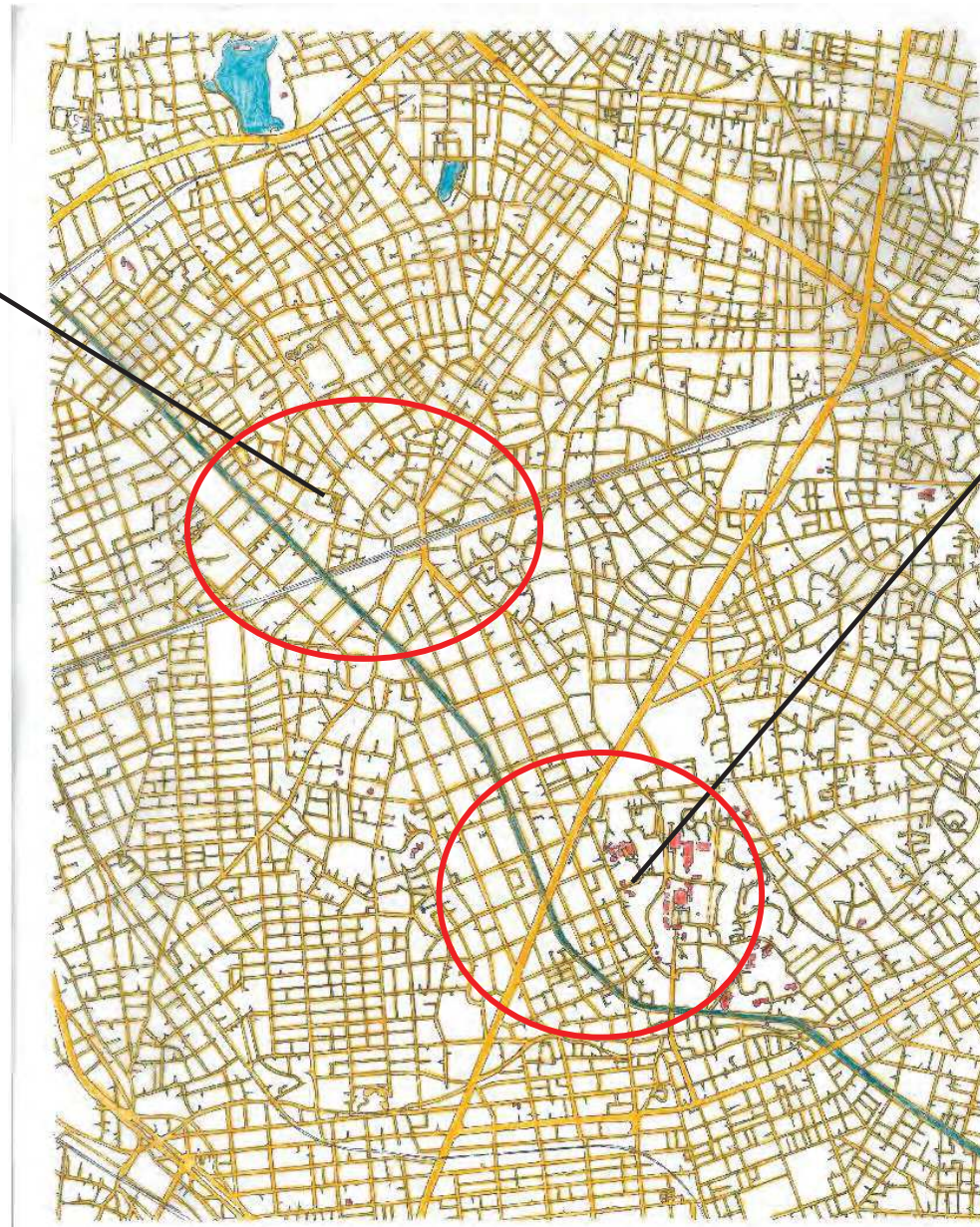
土地が高い



土地の起伏が激しく坂道が多い



住宅地が多く並ぶ



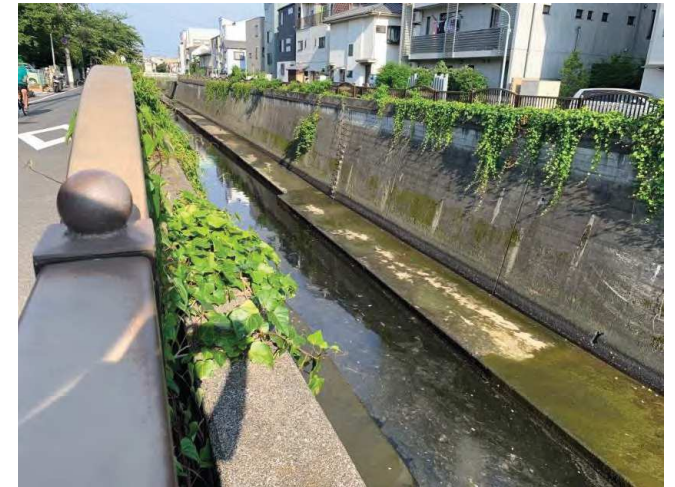
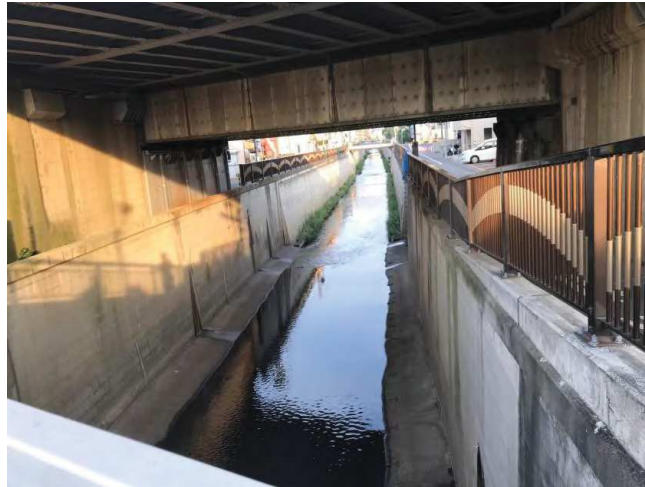
神社が多い





～実際に歩いてみて～

- 川の流れはとても穏やか
- 所々に大きな岩がありその周辺には魚が住み着いていた
- カメが大量にいた
- ハトなどの鳥もたくさんいた
- 雨が降っていなかったこともあり水深はとても浅かった



本門寺



考察

- ・ 呑川周辺は畑から住宅地へ➡川の需要の減少
- ・ 池上、雪が谷は住宅地にしては起伏がある
- ・ 整備された地域の中には昔の風景が残る